

## 第8次大阪府栽培漁業基本計画の対象種検討

## 第7次計画の対象種

魚種	資源量・技術的要因	漁業者ニーズ等	備考
キジハタ	栽培漁業の効果が顕著に出ているため、現状放流尾数を維持	刺網等の漁業者から要望が高い	10万尾
ヒラメ	生産を中止し購入種苗の購入先の生産業者の技術判断が重要	底びき網、刺網等の漁業者から要望が高い	10万尾
アカガイ	近年資源量がある程度、増加しており、放流数、放流方法等を検討	継続の要望が高い。	10→5万尾
トラフグ	まだ、回帰率は低いが、10年程度の調査研究が必要 1万尾の放流では効果が見えにくい。	瀬戸内海関係府県で連携して効果調査等継続	1→5万尾

## これまでの対象種

魚種	資源量・技術的要因	漁業者ニーズ等	備考
マコガレイ	高温、貧酸素に弱く、現在の海域環境では資源の増加は見込めない。	特に北部の組合でニーズは高い。	
オニオコゼ	一定の資源量がある。 生産時期がキジハタと重なる。	漁業者の要望はない。	
サワラ	瀬戸内海での栽培・資源管理の効果が顕著、資源量が増加している。 大阪府単独での栽培は難しい。	瀬戸内海関係府県でもニーズは高い。	
ガザミ	自然変動が大きく、栽培の効果が出にくい。 中間育成場がない。	抱卵親の保護については要望あり。	

## 新規検討魚種

魚 種	資源量・技術的要因	漁業者ニーズ等	備考
スズキ	一定の資源量があるので、効果が出にくい。 加温の必要がある。	マコガレイに代わる魚種として北部で要望あり。	
クロダイ	種苗生産の技術はある。	漁業者の要望は低いが、大阪湾のシンボルフィッシュとしての価値	
マダコ	放流効果が検証しにくい。 生産技術の向上待ち。	漁業権対象	
ナマコ	種苗生産にあたり技術的には可能	漁業権対象	水質浄化
カサゴ	生産は可能であるが、魚価単価が安く事業効果が出にくい	メバルとともに南部での要望はある。	
アナゴ	種苗生産が困難	府においても蓄養等の実施例がある	
シロギス	種苗生産は可能 砂浜が減少しており、放流場所が限定	価格が安い。	
トリガイ	一定の資源量あり。		加工出荷
タイラギ	種苗生産には時期尚早 研究の対象としてはあり。	貝毒に強く、一定の要望はある。	
ウマズラ	種苗生産は可能	漁業者ニーズはある。	